

〔地域農業研究所が出版を支援した書籍〕

「北の大地に挑む農業教育の軌跡」 刊行後の評価と購読推進に思う

公益財団法人 北農会農業技術コンサルタントチーム

代表幹事 富 田 義 昭（地域農研顧問）

筆者は、「記念碑に見る北海道農業の軌跡」と「北の大地に挑む農業教育の軌跡」の二つの著書の企画から執筆・編集、刊行に深く関わったことから、北海道農業の原点と歴史の一端を改めて知ることができた。

どのような職業人でも、自らの地域や組織で働く仕事に誇りと愛着を持つとうとすれば、過去の生い立ちや、先人達の苦闘の足跡を知る必要があるのは当然のことであるが、急速な時代変化に振り回され余裕のない現在では、過去の歴史に学ぶことがないがしろにされ、誰も教えてくれない、教えようとしめない、活字離れの時代で自己啓発を怠る風潮である。

「北の大地に挑む農業教育の軌跡」は刊行後一カ年を経た。評価が高く購読が

徐々に進みつつあるので、さらに関心を高めるため概要を述べたい。

▼評価はどうだったのか

道内外の新聞・農業雑誌に紹介記事や「書評」などが数多く掲載された。書評では、①学校教育以外の実践教育を網羅したこと。つまり、「農業者の主体的力量とは…いかにして形成されるものなのか。そこに『農業教育』の課題が存在するが、それは技術や知識の習得だけではなく、団結力、それを支える道徳や倫理というような広範囲な分野でのものであり、『そこにはフォーマルな学校教育だけではなく…インフォーマルなもの』の力が働いている…」。②「インターネットの時代であるが、五年先、十年先に優

れた手腕を発揮する能力を秘めた人材を発掘することはできない…」。③「北海道農業がデンマークの農業や農業教育と報徳活動の影響を受けたことを本書で知った（道外の研究者）」。④「第三編の創設者や指導者、卒業生・研修生の回顧などの『血の通った肉声』は圧巻だった」。などの評価であった。

刊行直後から関係機関が開催したイベント、研修会などで発刊案内パンフレットの配布・展示によりPRを行った。著書を見た高齢者は関心が高く、これは凄いと評価してくれたものの購入にはなかなかならない。現役の人たちは関心が薄いようであった。これだけの著書が三千円余は安いとの評価で、個人的に買える単価設定であるが、購読者は稀であった。

平成二六年二月開催の「道指導農業者・農業士会」研修会において、J A 浜中石橋組合長の講演があり、同氏に著書を送付したところ大変感銘の言葉をいただいた。講演後参加者に購読を勧めて下さり、大変効果的だった。

七月一五日、北海道地域農業研究所の研修会で、北大名誉教授太田原高昭氏の講演テーマ「農協組織・事業の改革のあり方―歴史と現実から学ぶ―」の後段で農協の教育活動の重要性に触れ、参考図書として著書の紹介をいただいた。

J C 総研の平成二六年度「J A 研究奨励」に推挙されたとの情報がある。十一月には審査されるという、権威のある一〇名の方々に査読してもらっただけでもありがたいことである。

▼購読推進の状況

執筆、編集や資料提供に関わった方々、刊行支援をいただいた関係先には贈呈した。また、道内の農業系大学、専門学校には図書用として献本した。新聞・雑誌に紹介記事や書評掲載先に贈呈した。また、農業者組織（指導農業者・農業士・

J A 青年部・J A 女性部・4 H クラブなど）北海道代表者など）にも贈呈した。総数は三〇〇冊を超えている。

刊行に必要な経費の助成金は、満度に得られなかったため、購読数を見越した刊行となり、購読の最低目標数を六二〇冊とした。七月にはようやく目標に到達した。

是非とも購読して欲しい行政、J A、普及センターでは一部の購入にとどまっていた。多くの役員には、北海道農業をリードする人材育成のため、歴史に学ぶことを勧めたい。

主要な関係先にはダイレクトメールにより購読推進をお願いした。極力訪問し説明するなど心がけている。しかし、農業団体・企業に対し説明に出向きたいとの依頼に対して拒否されたところもあった。農業教育は特定の誰かが担うもので、直接関係ないとの見解である。かつては北海道開拓以来、多様な農業団体、関係企業がそれぞれの立場で農業者を育てるなどの伝統と歴史があつたが、今やその気風が薄れたようであり、誠に残念なことである。

道内各図書館に所蔵推進している。市部はある程度購入いただいたが、農業を基盤とする町村では必要性を感じないのか、財政難のためか購入は低調である。

▼ライフワークとして

「農業記念碑」と「農業教育史」の刊行に関わったことで、研修会などで講演や話題提供をする機会が多くなった。

平成二六年三月一日開催された、北海道農業経済学会個別報告で「北海道における農業教育の軌跡」の調査・研究とその成果」を報告し、農業教育の重要性の問題提起をした。道農業経済学会では農業教育に関するシンポジウムが二〇年前に行われ、それ以来の話題提供だと聞いて驚いている。

また、「北海道開拓初期の農業と農業教育」をテーマに札幌市豊平区創造学園や札幌市高齢者講座などで、一般市民対象の講義に対応することになっている。その中で、農業・食料の大切さの理解を深め、北海道農業の応援隊になつてもらうなど、微力ながら健康が続く限り活動する積りでいる。